

孤立する若者の活性化と 就労支援

独立行政法人福祉医療機構（WAM）が行う社会福祉振興助成事業（WAM 助成）は、国庫補助金を財源とし、高齢者・障害者などが地域のつながりのなかで自立した生活を送れるよう、また、子どもたちが健やかに安心して成長できるよう、NPO やボランティア団体などが行う民間の創意工夫ある活動などに対し、助成を行っています。

今号では、WAM 助成を活用した社会福祉法人向陵会の取り組みを紹介します。

「共生」を理念に 障害者の自分らしい生活を支える

京都府向日市にある社会福祉法人向陵会は、平成11年9月の設立以来、「共生」を基本理念に掲げ、障害の程度や種別にかかわらず、利用者とその家族が地域のなかで自分らしく生活できることを支援してきた法人である。

主な事業として、平成12年に障害者総合支援センター「乙訓ひまわり園」を開設し、障害者の生活介護事業や就労継続支援B型事業所を運営するほか、放課後等デイサービスや

訪問看護ステーションなどの事業を展開している。

就労支援の活動メニューでは、パンやクッキーの製造販売をはじめ、クリーニング業務などを実施しており、平成18年から京都市伏見区にある龍谷大学の構内に設置された「Cafe 樹林」を大学と共同運営し、製造した商品の販売や接客などを利用者が行っている。

「Cafe 樹林」の活動について、同法人地域連携室長の井上大氏は次のように語る。

「カフェの運営は、龍谷大学から『障害のある人の働く場を提供したい』という申し入れをいただいたことがきっかけでした。運営を通じて利用者と学生の交流が生まれ、カフェをプラットフォームに共生社会の実現に向けて活動する学生団体『チーム・ノーマライゼーション』が結成されました。また、大学側の意向としては、カフェを学生にとっても学びの場となる場所にしてほしいという要望がありました。大学にはひきこもりの学生が少なくないことから、『チーム・ノーマライゼーション』の活動について、同法人地域連携室長の井上大氏は次のように語る。

◆団体概要

〒617-0006
京都府向日市上植野町五ノ坪11-1
TEL: 075-935-0160
FAX: 075-935-0161
URL: <http://himawari.net>
設立: 平成11年6月
理事長: 小野 哲

● 助成実績 ●

○平成28年度

「孤立する若者の“活性化と就労”支援事業」
(助成額: 331万5千円)

事業概要: 龍谷大学と社会福祉法人向陵会が運営するカフェをプラットフォームに、結成した学生団体「チーム・ノーマライゼーション」のメンバーが中心となり、障害者とひきこもりの若者が座学や実践研修とともに学びながら、自立や就労への意欲を高めることを支援する事業

障害者と孤立する若者の 自立支援に取り組む

ゼーション」のメンバーに協力してもらいながら、障害者と学生がともに学ぶことのできる場をつくり、自立や働く意欲を高めることに取り組んでいます」。

この取り組みは、平成28年度のWAM助成を活用し、「孤立する若者の“活性化と就労”支援事業」として実施した。

同事業は、障害者やひきこもりの若者がともに学びながら、社会のなかで自立し活躍できる人材を養成することを目的に、①トリムタブ・カレッジの開催、②靴磨き研修および実践、③農業および養蜂研修、④障害者雇用を促進するための企業アプローチ、⑤パネル





靴磨き研修では、実際に企業などを訪問し、顧客相手に靴磨きを実践した。感謝の言葉をかけられることで、仕事に対するやりがいや誇りをもつ利用者も多かった



実践研修の農業生産コースでは、農作業を通じてコミュニケーションを学ぶことで就労意欲を高めることにつなげた



龍谷大学内にある「Café 樹林」で、調理や接客業務を行う利用者

「基本方針としては、障害のある利用者に対し特別な配慮はせず、学生と一緒に学びながら、互いに高めあえる場にすることを目指しました。実践研修では、それぞれの適性にあった仕事をみつけてもらうとともに、自立していくためには手に職をつける

シアターの制作と実演などを実施した。障害者やひきこもりの若者の自立と活性化をサポートすることを目的とした「トリムタブ・カレッジ」では、座学と実践研修のカリキュラムを実施した。

「トリムタブ」とは、大型船の舵の先端にある小さなパーツのことで、最初にこの部分が動くことで船の進路を変えることが可能になることから、たとえ小さな存在であっても、自らが起点となり、社会に貢献する人材を養成していきたいという思いが込められている。

なお、平成27年度にもWAM助成を活用し、「トリムタブ・カレッジ」と同様の活動を行っている。平成28年度は「チーム・ノーマライゼーション」のメンバーがひきこもりがちな学生に参加を呼びかけ、学生21人と障害者6人が「カレッジ生」として参加している。

座学では、生活力のモチベーションアップを促すとともに、就労に向けたマナーやコミュニケーションスキルを習得することを目的に、グループワークを中心に障害者と学生が意見を交わしながら、社会に出るために必要な力を身につける内容となっている。

実践研修では、職人コース（靴磨き）、農業生産コース、飲食業コース（接客）の3つのコースを揃え、OJT型プログラムを通して就労に向けた技術の習得やコミュニケーション能力の向上を図った。

「トリムタブ・カレッジ」の活動について、同法人プロジェクトリーダーの河波明子氏は次のように語る。

「トリムタブ・カレッジ」は、図のスケジュールで年間を通じて開催した（年間実施回数・座学240回、実践研修144回）。

実践研修のうち、職人コースの靴磨きでは、学生が支援協力を受ける靴磨き専門店で学び、習得したスキルをカレッジ生に指導するかたちをとっている。農業コースでは農業生産法人と連携し、農作業の指導を受けながら、ねぎや小松菜、ほうれん草などの作物を栽培した。また、飲食業コースでは、「Café 樹林」に

ことが重要であると考え、いつまでも働き続けられる仕事として3つを選びました。最終的には自分にあつた活動を選択してもらうのですが、カレッジ生にはすべての研修を受けてもらいました」。

図 ※「トリムタブ・カレッジ」週間タイムスケジュール※

月曜日		火曜日		水曜日		木曜日		金曜日			
9:00～ 9:05		登校・確認シート記入									
9:05～ 9:20		朝礼（体操・挨拶・発声練習） 目標発表									
9:20～ 9:50		マナー講習		パネルシアター		コーラス		コーラス		パネルシアター	
10:00～11:00		メソッド		農業実践				メソッド			
11:00～11:45		昼 食						昼 食			
11:45～12:15		移 動						移 動			
12:15～13:15		アルバイト						アルバイト			
13:15～13:30		休 憩						休 憩			
13:30～14:30		実践（OJT）						実践（OJT）			
14:30～15:00		振り返り						振り返り			
15:00～15:30		移 動									
15:30～16:00		終礼・下校									



配置した法人の指導員から接客などの指導を受ける体制となっている。

卒業生が起業し 研修生を受け入れる

靴磨きの研修体制は、平成27年度に参加した学生が、卒業後に靴磨き専門店を起業することにつながり、カレッジ生の研修を受け入れている。

靴磨き専門店を起業した経緯について、株式会社「革靴をはいた猫」代表取締役の魚見航大氏は次のように語る。

「靴磨きの実践を通じて、私自身も靴磨きという仕事にやりがいを感じるとともに、参加したカレッジ生が成長していく姿をみて、今後も活動に携わりたいと考え、卒業と同時に会社を立ち上げました。企業などへの出張サービスを手がけていますが、受け入れたカレッジ生にも同行してもらい、実際にお客様の靴を磨いたり、接客などを経験することで、福祉的ではなくプロの職人としての技術

を指導しています。お客様から感謝の言葉をかけられることで、仕事にやりがいを感じられるカレッジ生も多くいます」。

実践研修では、カレッジ生に働く意欲をいかに高めてもらえるかが重要となるが、自分が必要とされて仕事をする喜びを感じてもらうことが、何よりも意欲やモチベーションを高めることにつながるという。

「福祉側からみると、障害者が学生と一緒に学び、さまざまな経験ができることが大きな強みだと考えています。支援施設の場合、どうしても支援員から指導を受ける関係になりがちで、リスクマネジメントを重視して障害者の可能性を奪ってしまうことも少なくありません。比較的年齢の近い学生と一緒に活動することは大きな刺激になり、『自分もこう



社会福祉法人向陵会
地域連携室長
井上 大氏

なりたい』という目に見えた明確な目標ができるので、仕事に取り組む姿勢が飛躍的に変わります」(井上氏)

さらに、「トリムタブ・カレッジ」と並行し、障害者の自立と就労支援を目的とした靴磨き研修と農業研修を実施し、障害者自身が自分にあつた仕事を選択して、技術を磨くことに取り組んでいる。農業研修では、実践

小学校と児童館で実演したパネルシアターの様子。学生にとってもコミュニケーション力が高まり、社会貢献意識の醸成につながった

若者の活性化と雇用を考えることをテーマにしたシンポジウムには、多くの学生をはじめ、企業、行政関係者が参加した

研修で実施した野菜の栽培のほか、龍谷大学の農学部と連携し、養蜂を取り入れており、収穫した野菜や蜂蜜などを「Cafe 樹林」のメニューの食材に用いて提供している。

企業訪問・アンケートに 障害者雇用の調査を実施

障害者雇用を促進するための企業アプローチの取り組みでは、「企業訪問とアンケートによる障害者雇用の可能性について」の調査を実施した。企業訪問では、スタッフと学生と一緒に京都市内の13社の人事担当者とはアリングを行い、アンケート調査では131社から有効回答を得ている。

ヒアリングやアンケート調査の結果として、法定雇用率の達成率は6割程度であり、約半数の企業が知的・精神・発達障害者の雇用経験がなく、身体障害者に比べ雇用が進んでいないことがわかったという。

「平成30年4月から精神障害者の雇用が義務化されるなか、精神障害者の雇用に不安を抱えているという企業が多く、求めている人材として『高い能力より、働く意欲のある人がほしい』と考えていることが明らかにになりました。働く意欲をいかに引き出していくのかということが課題となりますが、これまで取り組んできた障害者の働く意欲を高めるノウハウを活かしながら、企業につながるような役割を果たすことにより、少しでも障害者の雇用が促進できる可能性があるのではないかと考えています」(河波氏)。

そのほかにも助成事業では、伏見区内の児



助成事業の成果として、障害者やひきこも

平成29年4月から 京都市の就労支援事業に

助成期間中に児童館や小学校で6回開催し、約180人の子どもたちに向けて実演しており、子どもや保護者から好評だったことから、平成29年度も活動を継続している。

実演したパネルシアターでは、地球温暖化など環境問題を題材にしたストーリーを作成し、子どもたちが楽しみながら、社会問題を学べる内容とし、制作や実演にはカレッジ生も参加した。実演する学生にとってもコミュニケーション力が高まり、社会貢献意識を醸成することにつながったという。

貼った舞台に、絵を描いた不織布を貼ったり外したりすることで歌遊びや物語りを展開するもので、地域の小学校や放課後等デイサービスから子どもたちの教育として『チーム・ノーマライゼーション』に依頼があり実施したものである。



靴磨きの会社を起業した魚見航大氏（写真中央）をはじめ、小谷美貴子氏（左）と宮崎雅大氏は、同法人の指導員として入職しており、卒業後も多くの学生が活動に携わっている

児童館や小学校に出向き、乳幼児や保護者、小学生を対象に「パネルシアター」を実演した。パネルシアターは、パネル板を

学生と一緒に 社会貢献につなげる活動を

社会福祉法人向陵会 トリムタブ・カレッジ

プロジェクトリーダー/ジョブコーチ 河波 明子氏

平成28年度のWAM助成で実施した「トリムタブ・カレッジ」の取り組みは、平成29年4月から京都市の就労支援事業として受託するという成果をあげることができました。活動に協力してくれた「チーム・ノーマライゼーション」の学生たちによる力が大きかったと考えています。

このような組織は、福祉系の学生が中心になっているイメージがあると思いますが、福祉系の学部だけでなく、さまざまな学部の学生たちで結成されているため、これまでの福祉的な既成概念にとらわれず、学生たちが主導して座学や研修プログラムをつくりあげたことが成果につながったのではないかと感じています。

今後も学生のもつ力を活かしながら、社会貢献につながる活動に取り組んでいきたいと思っています。



りの若者の活性化を図り、働く意欲につなげたことが評価され、平成29年4月から「トリムタブ・カレッジ」の取り組みが京都市の就労支援事業（就労移行支援、就労継続支援B型）として受託したことがあげられる。

「障害者だけでなく、学生たちにも大きな影響があり、ひきこもりがちであった学生が最後までやり抜いて卒業したり、現在も活動に携わってくれている学生も多くいます。大学からも活動を評価していただき、大学内にある障害者支援室から相談を受ける機会も増えました。」（河波氏）

また、学生が起業した靴磨き専門店では、スキルを習得した利用者の雇用も視野に入れているという。

今後の展望としては、企業調査で働く意欲のある人材を求めていることから、これまでに培ってきたノウハウを活かし、就労への橋渡しをする役割にも取り組んでいきたいとしている。

障害者や孤立する若者と学生とがともに学びあい、自立や働く意欲につながる「トリムタブ・カレッジ」のような取り組みが、全国に広がるのが期待される。

WAMからひと言

大学生と法人が協力して、靴磨きの企業や農業生産法人などと連携を図り、知的・精神・発達障害のある若者やひきこもりの若者に対して、座学と実践に即した研修によって、それぞれの個性を活かし、働く意欲を高めながら自立できるよう取り組んでいる点を高く評価しています。企業ベースの視点で、商品サービスを提供することで、障害者やひきこもりの若者たちの働く喜びを実現しており、今後も継続的な取り組みが期待されます。

NPO等の民間福祉活動への
応援よろしくをお願いします！

寄付金をお願いします

当機構では
寄付金を募集しています

お問合せ先：03-3438-0211（総務部総務課）



社会福祉振興助成事業に
関するお問い合わせ

●NPO リソースセンター

NPO 支援課（助成事業の相談・募集、NPO の融資相談等）

TEL：03-3438-4756

NPO 振興課（助成事業の広報、事業評価等）

TEL：03-3438-9942 FAX：03-3438-0218（共通）

